

四賢婦人は郷土の誇り

木山中の卒業生がレリーフ制作

郷土の偉人である

「四賢婦人」の肖像を木彫りしたレリーフを、平成22年度の木山中卒業生92人が制作し、3月24日、同校玄関上の壁面に飾られました。

レリーフの制作意欲が高まったのは、昨年12月、テレビでも放映された矢嶋楯子のDVDを観て、自分の住む町から男女平等社会の礎を築いた人を輩出したことや、楯子のゆるぎない信念を持った生き方に感銘を受けたこと

とによるものでした。

レリーフの大きさは幅2・4m、高さ1・7m。下書き後、10枚に分けて、生徒一人一人が彫刻と磨きの作業を行いました。

レリーフには、矢嶋楯子、竹崎順子、横井つせ子、徳富久子の肖像に加え、生徒会活動のテーマであった3C（チャンス、チャレンジ、チェンジ）の文字、母校を西側からみた風景などの思い出が刻み込まれています。



玄関を入った所に飾られたレリーフ

地元産の料理に舌鼓

町婦人会の米消費拡大料理講習会

町婦人会(富田セツコ会長)主催の米消費拡大料理講習会が3月30日、町公民館調理室で開かれました。

今回は、田上由美子栄養士の指導により、地産地消にこだわった「混ぜご飯」「ちらし寿司」「チキン南蛮」「鶏唐揚げ」「野菜サラダ」「のっぺい汁」「揚げ饅頭」など計9品を作りました。

試食会は、町公民館講堂を手作りの温かみのあるレストラン風にアレンジし、バイキングスタイルで実施。住永町長をはじめ各校区の区長会長、老人会長ら招待者は、地元食材を使った料理を思い思いに皿に盛り、舌鼓を打っていました。



地元の食材にこだわった料理が並ぶ試食会



観客の周りで踊り楽しませたひよっこ愛笑会

歌や踊りで華やかに

弾正祭開催

東北地方太平洋沖地震の状況を鑑み、中止も検討された弾正祭が、4月3日、義援金を募るなど被災地支援の機運盛り上げも込めて予定通り開催されました。これは、かつての木山城主の木山弾正をしのぶとともに、文化の振興と地域住民の友好、親ばくを図るため、弾正保存会(増永信喜会長)が毎年開催しているものです。

途中で小雨がばらつくあいにくの天気ではありましたが、祭りは被災者への黙とうで始まり、チャリティーでポップコーンや綿菓子が用意され、ステージでは、勇壮な弾正太鼓をはじめ歌や踊りなどの多彩な出し物、もち投げなどで盛り上がり、観客は春の一日を満喫していました。